

事業所名		放課後等デイサービスあいぼ				支援プログラム		作成日		2025 年		3 月		1 日	
法人（事業所）理念		知的障害・自閉症児を中心に、障害特性と個々の特徴に合わせた支援を行ないます。児童期から将来を見据え、重度の障害を持った子達でも自立した行動が出来るように個々に合わせた支援を行なっていきます。													
支援方針		・自閉症の障害特性と本人に合わせた環境調整（構造化）を行う ・個々の特徴に合わせた活動内容を提供する ・将来を見据え、自立した生活が送れるような介入方法で接する													
営業時間		平日	14:00	から	17:15	まで	送迎実施の有無	あり	緑区						
		祝日 長期休暇	10:00	から	16:00	まで									
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	TEACCHプログラムを参考にし、本人の特性に合わせた環境調整を行うことで、時間や空間をわかりやすく伝える。 食事、遊び、活動などの1日の流れを絵カードなどを用いたスケジュールで提示し、本人が見通しを持って行動できるように支援していく。スケジュールは本人に合わせた物を個別に用意し、無理なく過ごせるようにする。 必要な子には本人専用の個室を設け、安心して楽しく遊べる環境を提供する。決められた日に通うことで、生活リズムを整えていく。													
	運動・感覚	自立課題や感覚遊びを通して、指先や運動機能の発達を促す。 感覚過敏を持つ児童に対しては、過敏さに配慮した構造化を行っていく。													
	認知・行動	入ってくる情報を適切に処理して理解できるよう、伝え方、情報量、環境等を調整し、感覚の偏りやコミュニケーションの困難性によって生じる行動障害（パニックや他害などの不適応行動）の改善を行う。特に、視覚から得た情報からやるべきことや、やってはいけないことを理解し、行動に移す能力の向上に注力していく。													
	言語 コミュニケーション	絵カード、イラスト、ひらがな表などを適切に活用し、指さしや物の手渡しなどで意思伝達のスキルを身に着ける。 言語理解度や本人の文字への興味に応じて、文字や絵カードなどを視覚的に示し理解度を上げることで、適切な発信ができるようにしていく。													
	人間関係 社会性	就労を見据えて、大人が傍にいらなくてもひとりで課題をやりきる力を伸ばしていく。ワークシステムを活用し、見通しを持たせた環境下で実施することで、段階的に準備・実施・片づけを一人で行い、就労後に仕事と向き合う姿勢を身に付ける。 他者との距離感を意識しながら、適切な関係が築けるように支援を行う。													
家族支援		定期面談を通して困りごとの解消や進路相談の実施 必要に応じて家庭でできる構造化の提案 障害特性勉強会の実施 保護者会の実施					移行支援		進学先、移行先への情報提供の実施 通学、通勤のための公共交通機関の練習の実施						
地域支援・地域連携		地域の各事業所・関連医療機関との情報共有の実施 関連学校への訪問・情報共有の実施 緑区児童部会、強度行動障害部会への参加					職員の質の向上		全従業員が強度行動障害支援者養成研修を受講 各種外部研修への参加 内部研修の実施						
主な行事等		お出かけ（公園・水族館・動物園・トランポリンハウス・図書館・ミニ遊園地・科学館） お楽しみ外食（昼食レク・おやつレク） 季節の遊び（プール・水遊び・クリスマス会・卒業遠足）													